

研究の概要

20 20 年 11 月 1 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	精液を自宅から持参する際の温度維持の検討
代表研究者 (所属・氏名)：	IVFなんばクリニック 生殖技術部門 佐藤学
研究の目的：	自宅から持参される場合の精液は外部環境、特に温度変化の影響を受けます。冬の場合特に温度が低く、精液の温度が低下するにつれ精子の運動性が低下します。それを防ぐため保温容器で精液を保護し、体外受精の成績や顕微授精への変更リスク上昇などのリスクが下げられるかを調べます。
調査データ該当期間：	20 17 年 12 月 1 日 ~ 20 20 年 10 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	対象：体外受精予定で自宅から精液を持参される患者様、比較対象として院内で精液採取され体外受精を受けられた患者様 方法：臨床上で体外受精をするために調整する精液のデータ（精子数、運動率など運動性や精子の数）を自宅から持参の場合と院内採取の場合で比較します。
個人情報の取り扱い：	研究に用いる患者個人情報の保護を行います。研究報告により個人が特定されることはありません。
本研究の資金源 (利益相反)：	利益相反状態はありません。
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	IVFなんばクリニック 06-6534-8824 生殖技術部門 佐藤 学
備考	